

どんびま

2010年4月7日発行
発行者 椛の湖農業小学校

みのちゃん やすらかに

農小スタッフの古井実みのちゃんが亡くなってしまった。昨夏の椛の湖フォークジャンボリーを取り仕切った彼は、予想以上に大きかった反響のまだおさまらない10日後に病にたおれ、思うように回復しないまま逝ってしまった。

そもそも、椛の湖農業小学校の始まりのアクションは、あぼ兄とみのちゃんが神奈川県まで今西先生の菅井農業小学校を視察にでかけたことからだった。それ以前に「フィールドフォーク」の活動から一時期遠ざかっていたあぼ兄に「このまま終わる男じゃないはず」と火をつけたのはみのちゃんの仕業だった。

以来一緒にやってきた中で、みのちゃんの分担だった手書き文字や絵は農小のイメージをやさしく和やかなものにしてくれた。文字や絵に限らず、彼の遺していったものに接する度に、わたしたちは失ったものの大きさを思い知ることだろう。 (草)



4月授業日のご案内

- | | | | |
|------------|------------|-------|-----------------------|
| ●日程 | 4月18日(日) | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 受付 | 9:00~ 9:30 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、お茶(水筒)、箸 |
| 始めの会 | 9:30~ 9:45 | | レジャーシートなど |
| 授業 | 9:45~12:00 | ●郷土料理 | タケノコご飯のお弁当 |
| 椛の湖へ移動 | 12:00~ | ●締め切り | 4月14日(厳守) |
| 昼食 | | | |
| グループ対抗大運動会 | | | |
| 現地解散 | | | |

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)

※雨天の場合は、予定変更が有ります。

～とくちゃんの農小レポート～

～第17期が始まったよ～

私立椈の湖農業小学校も、早や17年目を迎える事になりました。例年入学式には小雪のちらつく事が多いですが、今年もやはり冷たい雨に、少しばかりの洗礼を受けてしまいました。

1 入学式。 9時30分より入学式をおこないました。

- *校旗掲揚。 6年生により校旗を掲揚しました。この旗は毎月揚げります。
- *校長挨拶。 安保洋勝校長から、この学校の立ち上げについての話がありました。
した。
- *来賓挨拶。 中津川市長代理の磯貝さんが、怪我をするくらいに頑張ってください、と激励を頂きました。
姉妹校の荒城農小スタッフの清水さんからも今後とも交流を深めて行きたいと話され、泥ダンゴの作り方を教えていただきました。
- *農場説明。 鈴村農場長から、学校の概要と注意事項があり、ほ場において使う農具の扱い等についての指示がありました。
- *先生紹介。 先ずは各グループを担当する農家先生が紹介されました。
1G～5Gまでを20名の先生方が、それぞれにお世話をいたします。解らない事は何でも遠慮なく聞いてください。
- *スタッフ紹介 この方たちは運営がスムーズに行くようにお手伝いをいたします。
また女性陣が中心ですが、昼食に出される郷土食準備のためのスタッフには、卒業生の保護者の方の協力も多数あります。
- *グループ紹介。 1G～5Gまでそれぞれ前に並び、一人ひとりが自己紹介しました。早く名前を覚えて仲良くなりましょう。

2 グループ活動。各グループ毎にテーブルを囲み、
グループ長と緊急連絡先を決めて頂きました。
事務局より連絡の入った際には、速やかな伝達をお願いします。

3 昼食。 五平もち、豚汁、大根サラダ、人参昆布の和え物、しいたけ天ぷら。
今月の主食は五平もちですが、かつては農家のご馳走でした。この地方ではダンゴを握り竹串に刺して焼きます。
だんご握りから体験しました。
今年も荒城農小のスタッフの方たちが、炭持参でお手伝い下さいました。感謝です。

4 畑の授業。人参、小松菜、ほうれん草、の種蒔き。
レタスの苗植え付け。
じゃが芋の植え付け。じゃがいもは種イモを包丁で二つに割り、
灰を付けてから畑に植え付けました。
芋から芽が出て大きく育ち子芋を沢山つけてきます。

畑で作った野菜は収穫時に、夫々公平に配分されて持ち帰りできますので、無農薬、有機栽培野菜の味を家族の皆さんで味わってみてください。

時にはイノシシやタヌキ、カモシカ、カラスさんなどに失敬されて無収穫の時もありますが、これも人間が遠因を作っているのだから、我慢しなくてはならないのかも・・・。

～とくちゃんのちょっと一言～

まだ、子供たちに農業体験などと云うことも、ましてや食育などと云う言葉すら馴染みの薄い頃から、この農業小学校は発足しております。

全国にもあまり例のない程の私立農業小学校です。

先生・スタッフはすべてボランティアで成り立っています。

したがって国とか行政からは制約は有りませんので、独自のスタイルで運営がなされております。

初めて参加の生徒さんや保護者の方には、まごつく事も有ろうかと思いますが、暫くは様子を見て下さい。

そして お父さんお母さん方も積極的に関わり、子供さんと共に農業を体験しながら、家庭での話題を共有し絆を深めていってください。

3月のレシピ 五平餅のたれの作り方

材料	濃い口醤油	180cc	卵	1個
	さしみ醤油	90cc	落花生	50g
	みりん	90cc	ごま	150g
	砂糖	300g		

① 落花生、ごまを油がにじむくらいまで、すり鉢でよくすりつぶす。

② ①に卵を加え、よくすり混ぜる。

③ ②に醤油、みりん、砂糖を少しずつ加えながらのばしていく。

※たれを作るときの、基本分量は米1升(10カップ)に対して、醤油180cc。

好みの味になるまで、砂糖やみりんを加えていけばいいと思います。

濃さは、落花生、ごまの量で調整します。(すり落花生、すりごまでもよい)

卵は焼いたときの照りをだすため、入れなくてもかまわない。

～ あぼ兄の百姓ぼなし～

さくらは咲いたが

暖かかった2月、このまま春になればと思っていたが、冬に逆戻りしてしまった。今年の3月のような気ままな天候は、農業に携わっている者にとっては愚痴をこぼしたくもなるものだった。

ある気象予報士は春の天気は「4K」のきびしさを持っていると言う。その「4K」とは「風」「乾燥」「火事」「花粉」だという。今年に限っては「乾燥」「火事」を「寒気」と「強風」に入れ替えたらどうかと思う。

いつもの年だと乾燥に風が加わって、この地方でもボヤや山火事があり、連日のように消防のサイレンを聞いたものだが、今年はほとんど聞かない。とにかく雨がよく降った。

農小の畑も28日の登校日にはなんとか間に合わせたものの、ニンジン・コマツナなど小さな種を蒔いた上にかぶせる土は湿気があって、ゴロゴロしていて発芽が心配だ。

また、ジャガイモの畑も一部がぬかるんでいて全部は植えられなかったが、農場長の鈴木さんが後日補植してくれた。その鈴木さんは「今年は切り口を下にして、早く芽を出すようにしたが、遅霜が心配だ」と言っていた。

まったく先が読めない天候だ。桜の開花宣言はあったものの、ぶりかえした寒さに何時満開にしようか迷っているかのようだ。近くのコブシは白い花が咲きかけたと思ったら、霜の害で黒いコブシになってしまった。桜など花はどこで春を感じて咲き始めるのか不思議だが、これだけ陽気に変化があっては草木も大変だ。

我々百姓にとっても、毎年同じようにやってきたことでも分からなくなってきている。畑は連日の雨でぬかるみ、大型機械は入れない。2月の暖かさで雑草は伸び放題のまま、種蒔き・植え付けが大幅に遅れている。

新聞によると、全国的に天候不順で野菜は品薄高になっているという。関東では、強風の影響で入荷先不透明だと、過去4年間の平均比でかなり高くなっているし、当面出回りの回復は期待できず、しばらくは高値が続くという。

最近では、天気予報はボタンを押すだけで時間毎に分かる。一週間の予報も一目で分かる。その予報も人工衛星をはじめ様々な観測機器と膨大なデータの蓄積によって出されている。昔の人はなにを基準に天気を予想したのだろうか？

百姓とはもともと「百の業・百の知恵を持つ人」の意味だ。事実、昔の農家は生活のほとんどが自給自足で百の仕事をした。石積みもするし、小屋も建てる、食べ物と言うに及ばず酒（どぶろく）も自分で作った。天気予報官の仕事もした。

先述の「遅霜」でいうなら、「芽ぶきの遅いナツメの木が芽をふけばもう霜は降らない」と言い伝えられていて、ナツメの芽をみてから種を蒔いた。桜の花は田（イネ）の仕事の目安になっていて、「あの桜が咲いたら、モミを蒔け、何をせよ、・・・。」と年寄りたちが言っているのを聞いたものだった。

天候不順が当たり前のような昨今、桜の花も咲くには咲いたが当てにならない。「明日は晴れるといいなあ」と願うだけのあぼ兄予報官（感）である。